

サラヤ株式会社 御中

国名：ウガンダ共和国

事業名：洪水頻発地における保健衛生リスク軽減事業

完了報告書



2016年2月

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

1. はじめに

事業名	洪水頻発地における保健衛生リスク軽減事業
事業地	ウガンダ共和国カセセ県カルサングラ準郡
事業期間	2015年9月 - 12月（4ヶ月）
総支出額	1,000,000円
裨益者	約13,000人（対象郡内の人口）

事業対象地はウガンダ共和国の西部にあるカセセ県カルサングラ準郡（人口約1万3千人）です。カセセ県は雨季になると洪水リスクが高まりますが、カルサングラ準郡は河川の下流に位置し、さらに平地であることから、洪水が起きると水が数か月にも渡って滞留することもあります。これにより、農作物への悪影響や衛生環境の悪化もより深刻なものとなります。また、近年、気候変動の影響を受け、洪水の頻度、深刻度ともに増してきていると言われます。



子どもは災害によりさまざまな面で影響を受けます。例えば、農作物の不作のために、家庭の食事が影響を受け、十分な栄養が摂取できなくなったり、洪水や大雨後の滞水による衛生環境の悪化により、下痢やコレラなど水系感染症のリスクが高くなったりします。さらに、不作となり家計が圧迫されると、子どもも家の仕事を手伝うために、学校を休みがちになったり、それを機に退学してしまう子もいます。



このような状況を受け、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、2015年2月より、この地域の村や学校を中心としたコミュニティが災害に準備、対応する能力を高める事業を開始しました。



サラヤ株式会社様からのご支援は、この防災事業、その中で特に保健衛生リスク軽減に特化した学校での保健衛生促進活動に活用いたしました。これまでの活動を通じ、地域の防災体制・計画等が整備されるとともに、対象地域の人々の災害に対する意識が向上してきています。また、特に学校における洪水後の水環境を中心とした衛生問題に関する意識向上が図られています。以下、詳細をご報告いたします。

2. 活動報告

■ 防災事業：緊急対応計画～応急処置研修～啓発活動

- 緊急対応計画の策定：事業地の 18 村に設立した災害対策委員会、8 校における学校ベースの防災クラブが、災害時にどのように対応するのかを定めた緊急対応計画を策定しました。災害が予想される時、起きた時など、どのタイミングで、誰がどのような行動をとるのか、避難所はどこにするか等が話し合われ、またこの計画をコミュニティにどのように広めるのかについても議論されました。



防災行動計画策定ワークショップの様子

- 救急応急処置研修：まずは、村や学校で活動するボランティア、また防災クラブの顧問に対し指導者研修を行いました。その後、このボランティアと教員が中心となって、村の災害対策委員会、防災クラブのメンバーに対し救急応急処置研修を行いました。事業では救急箱も支給していますが、実際の緊急時には救急箱がすぐ近くにあるとは限らないので、研修では、衣類や木の枝など身近にあるものをどのように応急処置に活用できるか等も取り上げました。技術をしっかり身につけてもらえるよう、研修は模擬実践もしながら進めました。



指導者研修を受けたボランティアが、実践も交えながら村の災害対策委員会のメンバーに研修を行った

- 村・学校での啓発活動：コミュニティの人々にとって、「防災」という概念はまだ浅く、災害が起きても「怖い、困るが仕方ない、どうしようもない」と捉えられることも少なくありません。そこで、事業を通じて能力強化を行ってきた村の災害対策委員会が中心となって、村の人々を対象とした防災に関する啓発活動を行い、加えて、設定された防災行動計画（コミュニティとしてどのように防災能力を強化していくか計画したもの）の周知も行い、全 18 村で 3,600 人を超える参加者がありました。また、学校では、防災の重要性や、災害時のリスクを少なくするためにできることについて、防災クラブメンバーが他の生徒たちや PTA のメンバーに対して発表も行いました。



村での啓発活動は、村の代表者も集めて行われた

■ 学校での保健衛促進活動：保健衛生教育指導者研修～浄水器の導入

- ◆ 保健衛生教育指導者研修：上記の救急応急処置研修同様、まずはボランティアに対し指導者研修を行いました。細菌って何？どこにいる？といった基本的知識から、病気の感染を予防するための正しい手洗いの方法や、家族や友だちに病気をうつさないための咳の仕方など、子どもたちが実践できる衛生的な生活習慣について研修を行いました。

子どもへの衛生教育において、実際に子どもたちが内容を理解・習得してくれるかは、どのように伝えるかが鍵となります。そこで、保健衛生の知識をどのようにしてわかりやすく伝えるのか、楽しみながら学べるようゲームやクイズを使った方法など、実践のノウハウについても研修を行いました。



保健衛生の基本知識を学ぶ指導者研修



クラスを想定し、模擬授業を行うボランティア

- ◆ 浄水器の導入：事業地では、水道はなく、家庭も学校も地域に設置された井戸水や川の水等を利用しています。飲用には水を煮沸する必要がありますが、そのための木炭は経済的負担となります。煮沸を略したり、煮沸の時間を十分に取らないことは、水系感染症の感染リスクを大幅に上げることにつながります。そこで、清潔な水を確保するために、土器のフィルターを介して水が濾過される浄水フィルターを購入して各学校に提供しました。この浄水フィルターを用いることで、水が土器フィルター部分にある小さな穴を時間をかけて通ることで、濾過後の水中のバクテリアが99.9%除去され、飲用に適する安全な水となります（このフィルターは他国でも導入されていますが、ウガンダ政府からも試験結果が承認されています）。フィルターに入れるのは、水であれば、雨水でも川の水でも、水たまりの泥水でも問題ありません。管理も非常に簡単なものとなっていますが、その管理方法については、上記の指導者研修でも取り上げ、各学校への継続的に指導ができるようにしました。



初めて見るフィルターに、子どもたちは興味津々

- ◆ 学校での保健衛生研修実践：研修を受けたボランティアによる学校での保健衛生研修を行いました。ボランティアは、事前に準備・練習したアクティビティ計画に沿って、生徒の反応を見ながら、進め方を調整したり、臨機応変な対応をしつつ、生徒の積極的参加を促しながら研修を進めることができました。咳をする際に手で覆うと菌は空気中をどのように拡散するかをチョークの粉を使って可視化するアクティビティでは、生徒たちはチョークの粉が見るみる内にいろいろな場所に広がっていくのを興味深く観察し、咳をする際に正しく口を覆う重要性を改めて認識したようでした。加えて、この研修の中で、浄水フィルターについても、適切に使用・管理されるよう、説明を行いました。浄水フィルターはコミュニティにとっても新しいものであることから、一部の親を集め、説明会を併せて実施しました。

今回の研修は指導者研修後に研修で学んだ知識とスキルを実践する場として1校で行いましたが、今後事業地域内の全ての公立校（7校の内残り6校）とコミュニティスクール1校を対象として同様の研修を実施します。



導入部で生徒たちの予備知識を確認



咳の際、適切な口の覆い方を見せる生徒



チョークの粉で真っ白の手...握手したい？

- ◆ 防災クラブメンバーによる啓発活動：事業を通じて各学校に設立した防災クラブのメンバーが年間のふり返し会を行い、クラブ活動を通じて学んだこと・伝えたいことを、歌や詩、寸劇等で発表しました。衛生問題に関連して、手洗いの方法を歌と踊りにして表現したり、水による感染症の恐さと予防方法を歌にして伝えるなど、子どもたち自身が考え、創意工夫を凝らしたユニークな方法で衛生に関するメッセージが発せられました。発表の場には、他校のクラブメンバー、生徒たちだけでなく、村の代表など地域の大人を含む総勢 600 人を超える人々が参加しました。各クラブの発表後の意見交換では、これらのメッセージがこれからも引き続き各学校で発信・共有されること、そして適切な衛生習慣をすべての人が実施していく必要があると確認されました。



お腹を押さえ、感染症を表現する生徒たち

3.今後の展望

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、今後も当事業地において防災事業を継続する予定です。その中で、保健衛生教育や啓発活動についても引き続き促進していきます。学校で、定期的にまとまった時間を確保するのは簡単ではなく、継続的に保健衛生教育を実施していくためには、学校・教員の理解と協力に加えて、実際に実施可能な方法を示す必要があります。そこで、ボランティアから教員らへの指導を行う際には、今回の指導者研修で取り入れたような、ゲームや歌など短いアクティビティ型の具体的方法を中心に伝えていく予定です。加えて、こういったアクティビティは生徒同士で伝え合い、教え合う際にも有効と考えられ、防災クラブへの導入も教員とともに模索していきます。

また、導入した浄水フィルターの使用状況等についても引き続きモニタリングを行い、フィルターの使用が定着し、学校において安全な水の利用が確保されるようにしていきます。

子どもたちを対象とした衛生教育は継続的に繰り返し行っていくことで、知識が定着し、行動変容が促され、その結果、習慣として身につけていきます。今後も、防災事業内での様々な機会を活用して、保健衛生リスクが軽減されるよう、衛生教育を促進していく予定です。